



平成 29 年 5 月 31 日

福生市 定例記者会見資料

資料 3-4



福生市独自の教材で、オリンピック・パラリンピックをもっと身近に！

福生市の先生が作った オリンピック・パラリンピック読み物資料集

福生市教育委員会は、福生市独自の教材「福生市の先生が作ったオリンピック・パラリンピック読み物資料集」を作成し、平成 29 年 4 月、福生市立学校の小学校 4 年生以上の全児童・生徒に配布しました。本教材をとおして、児童・生徒が、オリンピック・パラリンピックとわが町福生との関わりに気付くとともに、開催都市東京に暮らす一人として、大会に主体的に関わろうとする意欲の喚起を目指しています。

■ 福生市立学校の 8 人の教員が、オリンピック・パラリンピックにゆかりのある方々等へのインタビューや調査を重ね、9 つの資料を作成しました。その中から 2 つを紹介します。

福生市を走った聖火の記憶 ～ 1964 年東京五輪聖火リレー ～

1964 年東京大会では、ギリシャのオリンピアで採火された聖火はアジア大陸を經由し、日本国内を駆け巡りました。その聖火が福生市内を通ったとき、福生町の多くの人々とともに、聖火ランナーの勇姿に見入っていたのが、当時 10 歳の加藤市長でした。2020 大会に向けた、加藤市長からふっさっ子へのメッセージ等を掲載。



福生町を走る聖火ランナー 瓜生喜藏さん

福生市をブラインドサッカーの地に ～ 福生市職員 鳥越裕之さんの願い ～



玲那さんの練習を見つめる鳥越さん
(写真提供 東京新聞)

「ブラインドサッカーを通じて、障害者と健常者という垣根がなくなり、お互いに理解し合って暮らす福生市を創っていきたい。」福生市の障害者スポーツイベント「ボーイボーイフェスタ」は、一人の福生市職員 鳥越裕之さんとその娘の玲那さんの思いや願いから生まれました。鳥越さん親子がブラインドサッカーの普及に着目するようになったのはなぜか、福生市がその普及を成功させるまでにどのような努力や取り組みを積み重ねたか等を掲載。

【問合せ】教育指導課 指導係 ☎042-551-1538